

説教のポイント

もう一つの恵み

フィリピ一・二九〜五・三〇

ヨブ四二・一〜五

恵み、という言葉がありますね。日常的にも使いますが、キリスト教の聖書にもたくさん出てきます。どちらでもよく使うだけにたまに混線してしまうことがあります。みなさんは、恵みと聞いてどんなことを思い浮かべますか？ 何かよいことがあった時、幸運だ、ラッキー！と思わず声をあげる時、それが恵みだと私たちは考えます。もちろん、恵みです。神様が与えてくださった喜びです。でも、聖書にはもうひとつの「恵み」がでてくることも今日は覚えたいと思います。

「あなたがたには、キリストを信じることだけでなく、キリストのために苦しむことも恵みとして与えられているのです」（フィリピ一・二九）

苦しいことがあったとき、それが恵みと私たち普通考えません。でも聖書はそういう。なぜ？ 旧約聖書にヨブという人がでてきます。「無垢な、正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きてきた」。そのせいか、たくさんの「恵み」をうけ、東の国一番の富豪にまでなりました。そのヨブに災難がふりかかる。財産も家族も失い、自身も病に苦しみます。何か悪いことをしたにちがいないと友人たちはいい、いつそ死んだ方が…と妻まで勧める始末。なぜですか、おかしいです、神さま！ 叫んでも答えはない。でも今日、最後の章で神様の声が出てヨブは悟っています。「あなたのことを耳にしてはおりました。しかし今、この目であなたを仰ぎ見ます」。人間が思い描く「恵み」ではなかったかもしれない。しかし、苦しみの中ではじめてあることに気づく。苦しいとき、その間中、神さまはずっと私の目の前におられた、ということに。